

物質フロー革新研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	<p>プラネタリーヘルスに物質ライフサイクルから迫るという明確な目標のもと、よく考えられた研究計画と研究内容で、成果の発表や還元についてもよくなされている。</p>	<p>本プログラムは、システム解析、リスク分析、技術開発の3側面から学術的成果はもとより、実社会にどれだけ響く仕掛けができるかに注力しています。その点をご評価いただき大変嬉しく思います。今後も、研究成果の学術的発信だけでなく、それを社会にどのように作用させるかを意識して研究を展開します。</p>
	<p>技術やモデルの開発が、現代的な社会問題の解決に結びつこうとしているのが実感できる、大変優れたプログラムである。</p>	
	<p>我々が、何をどれだけ削減しなければならないか、具体的かつ定量的に示したことは高く評価したい。また、G20国によるPM2.5の排出は、子供を含む年間200万人の早期死亡を導くとの結果は、マスコミにも取り上げられた。</p>	
今後への期待など	<p>金属資源リサイクルの徹底を早期に達成できるよう、世界各国への啓発を希望する。</p>	<p>金属資源の目標については科学アニメーションという形で発信し、世界の広い世代の目に留まる試みをしましたが、今後も類似の取り組みを続けます。</p>
	<p>各プロジェクト同士の関連があまり明確ではないと思われるが、今後、連携して進められることを期待する。</p>	<p>プログラムの目標達成に真に必要なプロジェクト間の連携点を見出して、「有機的」と言われる体制を検討します。</p>
	<p>農林水産セクターも含めて、さらに広域でのシナリオ分析なども、来年度以降は進めてほしい。</p>	<p>物質フローの転換を考える上で無数にある農業や食料の先行研究（特に窒素・リン負荷）の単なる後追いではなく、農学を専門とする参画研究者はおりませんが、別分野の視点から農業林業にとって決定的に重要となる課題を探ります。</p>
	<p>撥水撥油加工に使われるポリフルオロアルキル化合物(PFAS)の含有実態や処理による周辺環境への排出実態を調査することが望ましい。</p>	<p>PFASを含有する撥水撥油加工製品の特定は容易ではないですが、廃棄物等の処理・資源化施設における調査を通じ、その含有実態や処理による周辺環境への排出実態を明らかにできるよう努力します。</p>